

マラソンの歴史的考察

廣島英雄

男セを勢はのし五テデにルたヤ軍の十四のは又さ西虎あ植ば東むヤ同盛シに即今たンな合確か専にの行はて最  
はン破を獨援た十ネスター。レ優野五分首東破れ歟のる民し亞だ一時のヤ三ちか事レい致かや有移間は必も近  
全ヌツ以力軍。哩レ人レ首の勢にヤの都亞竹た文争。地終並「はに時」方西ら柄の。し何うのるにれず其何  
部レたてての然をと云の府奇て合。一をののる化とこをにびダリウスアジヤアのれ五七べにりがの好の様もマラ  
戦の。「し來し三スム使も一製あ戦ドヘ北猛勢大のな、も其に進取」つ文て十十て入其な青すする様もマラ  
場首無ルかるそ十バ者者「をテ遭たた」十距を「を表ギリシヤ王のた化わ年五見るのけ年る頃。よ様一れの裏話  
に都論もよの「六ルタと選イめは「ペラ哩二」として東西たの「手時象ベそ於一地六うにマば氣而立て最リ海前  
立はそシ僅り前スバタとんで「敗ギルソ三十」は兩ての仲て富シと最リ海前  
つ男の」一前デル「いたス散リシン百六八哩  
たと時の萬にて踏間アビメバシシャ」其軍に練之れ訓  
た云「大の希メア軍軍職

がし疾青ての老幼は彼方の年報一の貴婦は勝を待つき渡り此方アゼンスの寺院の社に勝てたる心に此の世に唱ふる響鐘達をのつ！な